

鶏肉情勢

令和2年10月5日 更新

全農チキンフーズ㈱

項目	内容
生産	1. 国内 (1) 生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会9月下旬実施)によると、8月の推計実績は、処理羽数56,874千羽(前年比98.9%)・処理重量164.6千ト(同98.4%)となり、前月時点の計画値と比較すると処理羽数(同98.9%)は計画とおりだったものの、処理重量(同99.1%)は猛暑の影響等で下回った。羽数の伸びに対し重量の伸びが下回っている状態が5月以降継続している。5・6月は肉食需要の高まりから早出しの影響も反映されてると思われるが、7・8月については猛暑等の影響か増体の減少が大きくなっている。廃棄合計も3.27%と前年同月より0.27%上回った。 (2) 9月は処理羽数(前年比104.3%)・処理重量(同105.0%)、10月も処理羽数(同102.5%)・処理重量(102.4%)、両月とも前年を上回る計画。11月は夏場の猛暑による死鳥の増加および増体の悪化等の影響で処理羽数(同98.0%)・処理重量(97.0%)ともに前年を下回る計画となっている。また、年末特需期を控えているなか10・11月の入雛羽数が前年を下回る計画となっているのが気になることである。
	2. 輸入 (1) 財務省9月29日発表の貿易統計によると、8月の鶏肉(原料肉)輸入量は40.3千ト(前年比79.8%)で、日本食肉輸入協会の現地積み出し数量と検疫数量をもとに出した予測(43.70千ト)を約3.4千ト下回り、外食産業の需要減退および在庫過多により調整したものと思われる。国別ではブラジルが予測を約2.0千ト下回る31.07千ト(同82.1%)、タイも約1.0千ト下回る8.48千ト(同80.8%)となった。1-8月累計でも357.6千ト(同98.3%)と前年を下回った。同協会(9月18日鶏肉輸入動向検討委員会)によると9月は44.5千ト(同83.0%)、10月も44.5千ト(同86.3%)との予測を公表した。「外食需要が回復していないことから厳しい状況が続いており価格も上昇する気配はなく、ブラジルの生産量が維持されていることもあって、当面は価格に変動はないと見込まれる。」とコメントしている。 (2) 鶏肉調整品の8月輸入量は34.18千ト(前年比81.4%)と、前月より約4.3千ト減少した。国別ではタイ産が前月比約2.1千ト減少し前年比86.8%の22.78千ト、中国産も前月比約2.01千ト減少の10.87千ト(同67.8%)となった。1-8月累計でも前年比95.3%と外食需要等の減少が影響し、下回った。9月以降についても、流動的で中国の動向次第ではあるが国内向け需要増もあり調整品全体の輸入減少が見込まれる。
需要	1. 家計消費 (1) 総務省統計局発表の家計調査報告によると、7月は、全国一世帯当たりの3畜種生鮮肉の消費(購入)数量は3,944(前年比111.4%)、金額は5,832円(同115.2%)となった。前月からの増加幅は縮小したものの3畜種とも前年を上回った。牛肉は数量(同109.0%)・金額(同118.4%)とも上回り、豚肉も数量(同107.3%)・金額(同113.3%)とも上回った。鶏肉についても同様で牛肉・豚肉に比べ安価なこと等で前月に引き続きテーブルミート等の販売が順調で数量(同117.9%)、金額(同115.1%)とも前年を大きく上回った。また加工品についてもハム(同96.8%)は下回ったものの、ソーセージ(同108.0%)の数量が増加した。
	2. 量販・卸 (1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、8月の食品売上高は全店ベースで前年比108.7%と上回り、生鮮3部門の売上高も全店ベースで前年比113.7%、既存店ベースでも同112.4%と上回った。畜産部門の売上高は1,167億円で全店ベース(同111.6%)、既存店ベース(同110.3%)とも前月に続き上回った。「引き続き外食自粛や家庭での調理用食材への需要は高止まりしており、一般的に好調となった。気温が高く焼肉用食材が好調となった。なかでも和牛は価格が低下しており販売数量が大きく伸びた店舗もみられたが、お盆時期の帰省客減少で大容量などが不振となった店舗もみられた。国産豚肉や鶏肉は相場高がついているものの、挽肉をはじめ日常消費向けの商品の動きが良かった。一方輸入肉は価格が高く伸び悩んだ店舗もみられた。ハムソーセージなど加工肉も堅調な販売動向が続いている。」と報告された。また総菜部門の売上高は全店ベース(同100.7%)では前年並みであったものの、既存店ベース(同99.4%)では下回り、「引き続きイベント中止による大人数用総菜、家庭内調理機会の増加による中食需要の低下、ばら売り販売中止が影響した。帰省自粛の影響で予約販売が低調、ランチ需要の減少を指摘するコメントも目立った。」と報告があった。
	3. 業務・加工筋 (1) 日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べによる7月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比95.8%の4.82千トとなった。うち国内物は同94.0%の3.94千トと下回ったものの、輸入物が同105.0%の0.878千トと上回った。1-7月累計では国産物は同102.4%と上回っているものの、輸入物が同84.7%と大幅に下回り合計では同99.3%となった。加工用としての輸入が減少したと思われる。鶏肉加工品は8月以降も引き続き家庭内需要や中食需要の高まりから動きも堅調と考えられ、逆に中国等からの調整品輸入が減少となっていることを考えると引き続き国産物での製造量増加が期待できると思われる。
在庫	1. 令和2年7月 (1) 推計期末在庫は国産29.5千ト(前年比101.6%・前月差+10.97千ト)、輸入品140.6千ト(同110.2%・同△11.61千ト)と合計で170.1千ト(同108.6%・同△0.64千ト)となった。生産量がほぼ前月並み(△0.2千ト)、輸入量は0.93千ト増加した。国産品の出荷量が生産量を下回ったため、国産品の在庫は増加した。輸入品は、外食関連の需要がやや回復し、出荷量が約16.5千ト増加の63.19千トとし輸入量も若干上回ったため在庫は減少し、しかしながら前年からは引き続き上回った状況で推移している。
	2. 見通し (1) (独)農畜産業振興機構の需給予測(9月28日公表)では、8月は国内生産量が前月より減少(約△7.9千ト)し、輸入量も前月比で約7.9千ト減少、出荷量も前月比で約13.5千ト減少するため期末在庫は約167.1千トと前月より約3.0千ト減少し、前年(156.9千ト)より約6.5%増加の見通しとなっている。 (2) 9月は前月比で生産量が前月より約0.8千ト上回り、輸入量もブラジル中心に約0.8千ト増加、出荷量も約4.4千ト増加するため期末在庫は国産・輸入品合計で約5.7千ト減少の約161.4千ト(前年比98.2%)と予測されている。10月は生産量が約14.7千ト増加し、輸入量は前月並み、出荷量は約12.6千ト増加するため、在庫は3.7千ト減少の約157.7千ト(前年比94.3%)と予測されている。今後も新型コロナウイルスの影響による需給動向に注視が必要である。
相場	1. 9月動向 (1) 9月の平均相場は、もも肉609円/kg(前月比+13円)・むね肉281円/kg(同+9円)正肉合計で890円/2kgと前月比で22円上回り、前年比でも111円上回った。もも肉は月初602円で始まり、月始め若干乱高下したものの高止まりで推移し月末620円と結果+18円高で推移した。むね肉も、月初276円から多少変動し一時293円と上昇したがその後下げに転じたものの月末288円と結果12円高と上げ基調の推移となった。外出自粛および猛暑等もあり肉食需要が引き続き強く量販店等からの引き合いに左右された格好になったと思われる。
	2. 見通し (1) 10月は、気象庁発表による向こう1か月の気温が北日本・東日本は前年より高いものの西日本はほぼ前年並みと予報されている。連休もなく盛り上がり欠けるものの、下げ要素も見当たらず、もも肉は前月末(620円)から保ち合い圏内月平均620円と予測する。むね肉についても、加工筋からの引合いも堅調であり、保ち合い圏内の月平均280円と予測する。 (2) 新型コロナウイルスの終息が見えぬ中、国産鶏肉は肉食需要の高まりで、量販店・生協等からの引き合いも強い。しかしながら輸入品在庫が豊富なため量販店が取り扱いを拡大する懸念があるものの、鶏肉生鮮相場は11月以降も高水準での推移が見込まれる。

実績												
生産状況												
単位:千羽、千トン、%												
	R2年8月推計実績		R2年9月計画		R2年10月計画		R2年11月計画					
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比				
入雛羽数	63,464	99.5%	67,123	103.1%	63,556	98.4%	60,331	98.8%				
処理羽数	56,874	98.9%	58,948	104.3%	63,529	102.5%	60,076	98.0%				
処理重量	164.6	98.4%	173.1	105.0%	189.3	102.4%	179.7	97.0%				
※参考資料:全国食鳥新聞発行「PMN」												
輸入動向												
単位:千トン、%												
品名	鶏肉			調製品			合計		比率			
	履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品
R2年5月	36.1	46.6	77.5	36.6	41.0	89.2	72.7	87.6	83.0	49.7	50.3	
R2年6月	50.7	43.4	116.8	41.6	39.0	106.7	92.2	82.4	112.0	54.9	45.1	
R2年7月	51.6	53.2	96.9	38.4	46.6	82.3	90.0	99.8	90.1	57.3	42.7	
R2年8月	40.3	50.5	79.8	34.1	42.0	81.4	74.4	92.5	80.5	54.1	45.9	
R2年累計	357.6	363.9	98.3	313.6	328.9	95.3	671.2	692.8	96.9	53.3	46.7	
※参考資料:全国食鳥新聞発行「PMN」、全国食鳥新聞												
鶏肉の消費動向(2人以上の世帯)												
単位:グラム、円、%												
履歴	数量			金額								
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比						
R2年5月	1,716	1,418	121.0	1,578	1,296	121.8						
R2年6月	1,599	1,437	111.3	1,408	1,268	111.0						
R2年7月	1,530	1,298	117.9	1,364	1,185	115.1						
R2年平均	1,575	1,396	112.8	1,428	1,285	111.1						
※参考資料:総務省統計局HP												
相場(年別・暦年)												
単位:円												
	もも肉	むね肉	計									
H26年	626	294	920									
H27年	639	336	975									
H28年	621	255	876									
H29年	626	315	941									
H30年	595	282	877									
R元年	585	243	828									
在庫状況												
単位:千トン、%												
履歴	国産			輸入品			合計					
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比			
R2年4月	27.2	30.7	88.5	144.5	122.4	118.0	171.7	153.2	112.1			
R2年5月	21.1	30.7	68.8	148.3	122.1	121.4	169.4	152.8	110.9			
R2年6月	18.6	30.6	60.7	152.2	123.0	123.7	170.8	153.6	111.2			
R2年7月	29.5	29.0	101.6	140.6	127.6	110.2	170.1	156.6	108.6			
※実績参考資料:畜産日報、農畜産業振興機構												
相場(月別)												
単位:円、%												
品名	もも肉			むね肉			正肉合計					
	履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比		
R2年6月	610	561	108.7	257	226	113.7	867	787	110.2			
R2年7月	598	543	110.1	261	222	117.6	859	765	112.3			
R2年8月	596	535	111.4	272	225	120.9	868	760	114.2			
R2年9月	609	544	111.9	281	235	119.6	890	779	114.2			
R2年10月	(620)	556	111.5	(280)	254	110.2	(900)	810	111.1	※( )は見通し		
R2年11月	(620)	570	108.8	(280)	262	106.9	(900)	832	108.2			
R2年平均	600	588	102.0	258	237	108.9	858	825	104.0	※1-9月平均		